

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	22	学 校 名	吉田特別支援学校	校 長 名	伊藤 聖子
------	----	-------	----------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
授 業	ア 「やりがいと手ごたえのある」授業の実践	・児童生徒は、それぞれにやりがいや手ごたえを感じて登校している。	A:52% B:47% C:1% D:0%	A	・児童生徒の気持ちに沿った授業展開を重視してきたことにより、授業を期待する発言や表情や動きで学びたい気持ちを表現する姿が増えた。 ・もう少しでできる課題を設定したことにより、自信がついた。 ・今後、やりがいと手ごたえを実感している姿を想定し、共通認識すれば個々に応じた手だてがより具体的になる。
	イ 地域と協働する教育課程の再編	・教員は、自分の担当単元の設定理由を語ることができる。	A:53% B:42% C:3% D:1%	A	・児童生徒にとって今必要な学びは何かを繰り返し話し合い、単元設定することができるようになった。 ・学習指導要領や年間計画に基づいて授業づくりができた。
	ウ 教職員の専門性の向上のためのシステム作り	・教職員は、授業準備や分掌業務に十分に組み組めている（前年度比） ・教職員は、自分の決めたテーマに沿った研修を進めている。	A:38% B:53% C:9% D:0% A:28% B:64% C:6% D:2%	B	・B評価がA評価を上回っている。C評価も9%である。今年度から日課変更し、授業準備の時間が増えたが学部により実感に違いがある。学年をまたぐ授業が多い中学部や高等部では今もなお話し合いの時間の確保が必要だと感じている。今後も指導体制や分掌業務の見直しを継続し、児童生徒と向き合う時間の確保に努めていきたい。 ・職員研修では校外での研修会や外部講師から学ぶ機会を活用できた。今後も職員が主体的に学びに向かう姿勢を持続けるようにしていきたい。
連 携	ア 児童生徒が主体的に取り組むキャリア教育の推進	・児童生徒が、自分の学習を振り返って記録する機会がある。 ＊キャリアパスポートの第一歩	A:44% B:47% C:8% D:1%	B	・各学部で児童生徒自身が学習を振り返る時間を重視できた。キャリアパスポートに関しては今後、学部を越えて検討し、整理していく必要がある。また、キャリアパスポートの意義を学ぶ機会をもちたい。

様式第3号

	イ 吉田町の特色を生かしたコミュニティスクールの推進	・学校運営協議会の提案により ICT 活用が広がっている。 ・学校間交流、交流籍を活用した共同学習により、互いに成果を確認することができる。	A:34% B:55% C:11% D:0%	B	・学校運営協議会で協議することができた。吉田町の取組から学び、本校でも文書共有の方法を整理したことにより効率良く業務を行うことができるようになった。また、卒業後、児童生徒にとって ICT が便利な道具となるよう、学校教育の中にも積極的に取り入れ、日常的なツールになるようにしたい。 ・高等部で近隣高等学校と共に学習する機会を設けた。両校にとって学びがあり、今後も交流の場を地域に広げていきたい。 ・交流教育の目標を両校で共通認識できるよう、本校から積極的に発信していきたい。
	ウ 生涯教育につながるスポーツ・芸術・読書活動の拡充	・一人一作品、作品展への応募ができています。 ・一人一スポーツ、一冊以上、好きなものがある。	A:24% B:60% C:15% D:1%	B	・外部講師を活用した体育科授業の実施。高等部では生涯教育のきっかけになるよう、わかふじスポーツ大会に参加した。 ・日々の学びが生涯教育につながっていることを自覚し長期的な視点をもって指導に当たっていききたい。 ・読書週間実施や多読者賞の表彰などにより、本の貸し出し数が前年度より増加した。
安心	ア 学校安全計画の更新と自他を大切にすることの育成	・児童生徒は自分の命を守るための行動がとれている。 ・児童生徒は、人を思いやる気持ちを持ち、行動することができる。	A:44% B:52% C:3% D:0%	A	・児童生徒は自ら机の下にもぐったり頭を守ったりする行動が定着している。教師の話を聞いて落ち着いて行動できるようになった。 ・煙避難体験や起震車体験、高等部2年は静岡県地震防災センターでの学習を実施した。体験を通して防災意識を高めることができた。
	イ 事故や大規模災害に備えた危機管理体制の強化	・教職員は、児童生徒の安全に対する想像力を働かせて、日々の業務にあたっている。	A:43% B:51% C:6% D:0%	B	・自然災害やアレルギー対応、服薬対応など、日々危機管理マニュアルに基づいて役割分担を再確認し、実情に合わせて内容の見直し、更新をすることができた。 ・12月の防災教育の日は、保護者に参観してもらい、家庭での防災意識向上につなげることができた。 ・今後も現実的な防災教育を推

様式第3号

					進していく。地域との連携を強化し、防災力を高めていきたい。
	ウ 守るために学ぶ教職 員の育成	・教職員は人権 感覚を磨き、児 童生徒の見本 となる行動が とれている。	A:38% B:59% C:3% D:0%	A	・学部ごと定期的に人権チェックを実施。意識の低い項目について学部を越えて共有し、全体の意識向上ができた。 ・CAREUP 研修を計画的に実施した。生徒指導主事や事務職員、中堅教員など管理職以外の職員が中心となって研修してきたことで職員が自分事と捉えるようになり、常に人に見られている意識をもって見本となる行動をすることができた。